

授業科目	特別支援教育論(障がい児保育含む) (Bクラス)				単位	1		
履修	選択	関連資格	幼二種免 保育士		ナンバリング	CH21315J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1			
担当教員	金田 孝一							
授業概要	<p>幼稚園や保育所等には、様々な障害等により特別の支援を必要とする子どもがいる。そこでこの授業では、特別支援教育の視点から、そうした子どもの理解と支援について学ぶ。</p> <p>最初に、特別支援教育の理念や障害の考え方などについて概観する。次に、様々な障害等により特別の支援を必要とする子どもについて、その障害の状態や特性等を理解し、適切な支援方法を見出せるように学習を進める。最後に、関係機関等とも連携するなど、特別の支援を組織的・継続的に行うために必要な知識を扱う。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育の理念について説明できる 2 障害の考え方について説明できる 3 様々な障害の状態や特性について説明できる 4 幼稚園や保育所等における具体的な支援の方法について説明できる 5 特別支援教育や障害児保育に関連する関係機関について説明できる 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)		30			10		40	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)		20			40		60	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 2 障害の考え方(定義)を理解し、具体的に説明できる。 3 障害の状態や特性等を踏まえた合理的配慮について、具体的に考えることができる。 4 関係機関との連携を含めた組織的・継続的な支援の取組について説明できる。 				<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育の考え方について説明できる。 2 障害の考え方を理解し、説明できる。 3 様々な障害の状態や特性等について説明できる。 4 障害の状態等に応じた具体的な支援方法を例示できる。 5 地域の関係機関について説明できる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	○授業のオリエンテーション ○特別支援教育の理念	講義 はじめのワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
2	○インクルーシブ教育システムへの道筋 ・障害者の権利に関する条約 ・特殊教育から特別支援教育 ・障害者差別解消法	講義 小テスト	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
3	○障害の考え方と合理的配慮 ・障害の概念 ・基礎的環境整備 ・合理的配慮	講義 小テスト	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
4	○特別の支援を必要とする子ども① ・視覚障害・聴覚障害の理解 ・障害の状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
5	○特別の支援を必要とする子ども② ・知的障害の理解 ・障害の状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
6	○特別の支援を必要とする子ども③ ・肢体不自由の理解 ・障害の状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
7	○特別の支援を必要とする子ども④ ・病弱（医療的ケアを含む）の理解 ・障害の状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
8	○特別の支援を必要とする子ども⑤ ・発達障害の理解 ・注意欠陥多動性障害（ADHD）の状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
9	○特別の支援を必要とする子ども⑥ ・広汎性発達障害（PDD）等の状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
10	○特別の支援を必要とする子ども⑦ ・言語障害などの理解 ・言語障害などの状態や特性とその支援 ・幼稚園や保育所等での具体的な配慮	講義 ワーク	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する 次回のテストに向け、特別の支援を必要とする子ども①～⑦を振り返る	30
11	○特別な教育的ニーズのある子ども ・母国語や貧困等の問題の理解とその支援 ○特別の支援を必要とする子どものまとめ	講義 小テスト	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
12	○組織的な支援体制と支援の継続 ・職員間の連携 （園内委員会、特別支援教育コーディネーター） ・個別の教育支援計画と個別の指導計画	講義 小テスト	講義範囲をテキストで読んで おく 講義内容をテキストで復習する	20
13	○関係機関や保護者との連携 ・地域の療育・相談機関等と支援内容 ・保護者との連携	講義 学習課題の発表	前回指示した学習課題を調べる	30

			講義範囲をテキストで読んでおく 講義内容をテキストで復習する	
14	○学校における特別支援教育 ・小学校における特別支援教育 （通常の学級、特別支援学級、通級による指導） ・特別支援学校（幼稚部、小学部）における特別支援教育	講義 学習課題の発表	前回指示した学習課題を調べる 講義範囲をテキストで読んでおく 講義内容をテキストで復習する	30
15	○小学校等への支援の継続 ・就学相談の理解 ・小学校等との連携 ○授業のまとめ	講義 まとめのワーク	講義範囲をテキストで読んでおく 講義内容をテキストで復習する	20
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	○ 授業の内容は、これまでの自分の経験と重ね合わせて理解します。 ○ 授業の内容は、これからの自分の生き方を意識し、自分のものにします。			
テキスト	○ 『特別支援 教育・保育概論 —特別な配慮を要する子どもの理解と支援』 尾野明美 他 萌文書林 2019年（改訂新版）2,000円			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	○文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年3月 フレーベル館（P124-130など） ○厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年3月 フレーベル館（P48-50など） ○内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』平成30年3月 フレーベル館（P118-124など） ○文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」令和3年6月〈文部科学省ホームページ参照〉			

	<p>○北九州市教育委員会「障害を理由とする差別の解消の推進に関する北九州市立学校・園教職員向けガイドライン」平成28年3月〈北九州市ホームページ参照〉〈同様のガイドラインは、他の地方自治体にもあります〉</p>
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>○ 受講生へのメッセージ</p> <p>・授業では、特に次の3点を意図します。</p> <p>① 専門分野（特別支援教育）に関する知識の理解と修得を目指します。（DP1-2【知識・理解】）</p> <p>② また、特別の支援を必要とする子どもを深くとらえ、適切な対応ができることを目指します。（DP2-1【思考・判断】）</p> <p>③ さらに、講義を通して、「何のために」という保育者・教育者としての見方・考え方、生き方を意識することを期待します。（DP4-1【態度】）</p>
達成度評価に関するコメント	<p>○達成度評価を行うため、授業後の「小テスト」、あるいは予習として指示した「学習課題」や授業内で行った「ワーク」の提出があります。</p> <p>○評価の観点とその割合は、【知識・理解】を40%、【思考・判断】を60%とします。</p> <p>○評価の方法とその割合は、「小テスト」を50%、提出物（「学習課題」・「ワーク」）を50%とします。</p> <p>○評価の方法では、評価の観点別に、次のような意図をもって評価します。</p> <p>【知識・理解】特別支援教育に関する知識の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習課題」 授業前の知識の整理 ・「小テスト」 授業後の理解の確認 <p>【思考・判断】特別の支援を必要とする子どもへの適切な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワーク」 具体的な配慮への思考 ・「小テスト」 適切な対応の判断